

2012年(平成24)6月

カルメル
霊性センターニュース



洗礼者聖ヨハネを伴う聖母子 (ピエロ・ディ・コジモ)

2012年6月

277号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

265 回目の一般謁見演説(2) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・ 48

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

特 集

教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見演説（2）

「リジューの聖テレーズ」について

2011年4月6日（水）午前10時30分から、サンピエトロ広場で、教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第8回として、「リジューの聖テレーズ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.4.7）

※ 霊性センターニュース5月号～9月号に連載中です。

（前号からの続き）

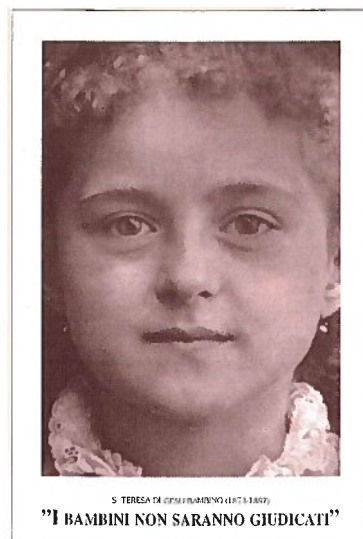
彼女は、自分の祈りによってこの犯罪者がイエスのあがないの御血に触れることができることを確信していました。それは彼女にとって霊的な母としての気遣いの最初の根本的な体験でした。彼女はいいます。「わたしはイエスの限りないあわれみに深く信頼しています」。若きテレーズは、至聖なるマリアとともに、「母の心」（PR 6/10r 参照）をもって愛し、信じ、希望したのです。

1887年11月、テレーズは父親と姉のセリーヌとともにローマに巡礼します（『自叙伝』：55v-67r）。テレーズにとって最高の瞬間は、教皇レオ十三世との謁見でした。彼女はまだ15歳だったにもかかわらず、教皇にリジューのカルメル会に入会する許可を願いました。1年後、彼女の望みはかないました。彼女は「人々の救いのため、とくに司祭がたのため祈るために」（同：69v〔前掲邦訳、222頁〕）カルメル会修道女になりました。同じ頃、父親は悲しく痛ましい精神病を発症しました。この深い苦しみから、テレーズは受難のイエスのみ顔（面影）を観想するように導かれました（同：71rv）。それゆえ、彼女の修道名である「幼きイエスと尊い面影のテレーズ」は、テレーズの生涯全体の計画を表します。彼女は、受肉とあがないという中心的な神秘との交わりのうちに生きたのです。1890年9月8日の聖マリアの誕生の祝日に行われた修道誓願式は、テレーズにとって、福音

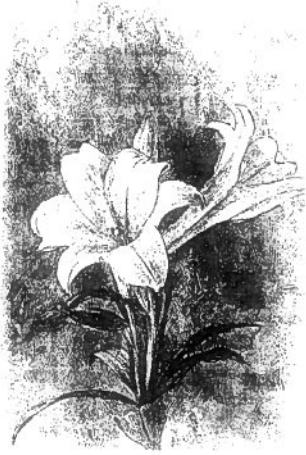
の「小ささ」のうちに結ばれるまことの靈的婚姻でした。この福音の「小ささ」は、花の象徴によって特徴づけられます。テレーズはいいます。「マリアさまの誕生日！ イエスさまの花嫁となるために、なんと美しい祝日でしょう！ お生まれになったばかりの“小さい”マリアさまが、ご自分の“小さい”花を“小さい”イエスさまにおささげになったのです」（同：77r〔前掲邦訳、244頁〕）。

テレーズにとって、修道女となるとは、「イエスの花嫁となり、人々の母となること」（『自叙伝』：Ms B, 2v〔前掲邦訳、285頁〕参照）でした。同じ日、聖女は一つの祈りを作りました。この祈りは彼女の生涯の目的を余すところなく示しています。彼女はイエスに願います。イエスご自身の無限の愛を。そして、もっとも小さな者となることを。何よりも彼女は、すべての人の救いを願います。「今日は、一人も地獄に墮（お）ちる者がないように」（Pr 2〔前掲邦訳、387頁〕）。1895年の三位一体の祝日に行った、「神のいつくしみ深い愛にいけにえとしてわが身をささげる祈り」（『自叙伝』：Ms A, 83v-84r; Pr 6〔前掲邦訳、265-266、388-391頁〕）はきわめて重要です。テレーズはこの奉献をすぐに、すでに副修練長となっていた姉たちと分かち合いました。

（次号に続きます）



心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十三章 死を黙想する

5 他人を頼りにするな

友人や親戚を頼りにするな。またあなたの救霊に関することを後回しにするな。なぜなら人は、あなたが思うより早くあなたのことを忘れてしまうからである。死後の代^{だいたう}禱を頼みにするよりも、生前、自分で備え、何かの善行をあらかじめ天に送っておくのがよい。あなたが今、自分のために備えをしておかないならば、将来、誰があなたのことを心にとめてくれるであろうか？大切な時は今である。「救いの日は今、よい時は今である」(ニコリント6・2)。しかし、悲しいことに、あなたは永遠の生命を確保する功德を得るために、今をよりよく利用しようとしていない。自分を矯^ため直すために、一日でも一時でもほしいと思う日が来るであろう。その時が、得られるかどうかはわからないのである。

6 つねに待つ

ああ愛する兄弟よ、もしあなたがいつも死を念頭において生きるなら、どれほどの危険、どれほどの恐怖をまぬがれることであろう。恐怖ではなく喜びをもって死を迎えるように努めなさい。今から、この世に死ぬことを学びなさい。そうすれば、死の時にあなたはキリストと共に生きるであろう(ローマ 6・9 参照)。今から、すべてのものを軽蔑することを学びなさい。そうすれば、その時、自由にキリストに近よれるであろう。今から苦行して、自分の肉体を抑えることを学びなさい(一コリント9・27 参照)。そうすれば、その時、あなたは完全な信頼をもてるであろう。

わたしたちの心を 開き
神のうちのの おろかなまでの愛を
信じなければなりません
神が望まれるのは
「無償で与えること」



いいえ
「無償で与えること」こそ
やむにやまれぬ 神の望みなのです*

～ 尊者マリー・エウジェンヌ神父 ocd ～

6月もまた教会の典礼はわたしたちが神と親しく生きるよう応援してくれます。三位一体の祝日(3日)、ご聖体の祝日(10日)、そしてみ心の祝日(15日)の流れは「神のいつくしみの大海」へとわたしたちを導き、そこにとどまるように招いています。「神が望まれるのはご自身を無償で当てること、そのいつくしみの愛を信じること」なのです。こうしてわたしたちは神の愛によって変えられてゆきます。

庭の紫陽花は日々色彩を微妙に変えてゆきます。一雨ごとにその色合いを深め、新鮮な姿を楽しませてくれます。今日は昨日と違う色合いをまとい、明日は今日とは趣をことにして。神のいつくしみの愛によって変えられてゆくわたしたちの姿と重なるようにもおもわれます……。でも、それには日々主の言葉を守る必要があります。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」(ヨハネ5・9)

ご復活の 果てしなく そしてさわやかな快い道で
イエスよ あなたはご自身を いのちのパンとされました
あなたの栄光に輝き また隠れた現存によって
あなたはわたしたちを捕らえました
あなたにとって なんとという喜び
わたしにとって なんとという力
もし このパンが「日用のパン」となり
もし 毎日 さらに あなたに飢え渴き
もし 聖霊によってあなたとなれるなら
そうです イエスよ
来てください わたしの 心に *

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

*『神と親しく生きる いのりの道』(聖母の騎士社)

食べる、働く、生きる

くのり 彰

某修道院に黙想指導に行っていた時のこと。私の窓の外に、修道院の玄関というか勝手口（二階）に通ずる折れ曲がった長い階段があった。ある朝、そこを宅急便の人が荷物をもって、タッタッタとかけのぼって行き、少ししてまた同じ調子でタッタッタとかけおりてきた。

たったそれだけのことだが、何か考えさせられた。彼は仕事としてやっているのではあるが、かけのぼり、かけおりる必要があるのか。もちろんノルマがあり、時間内にすべての品物を届けなければならない、早く終わらせれば、勤務評定が上がる、あるいは早く帰宅できるということもあるのかもしれない。だが、そのような打算的な思いを越えたところで、彼は動いているように見えた。言うなれば、働くこと自体が喜びであるかのような印象である。

「食べるために働く」とよく人は言う。確かに、生きるためには、食べなくてはならない。そのためには働いて、お金を稼がなくてはならない。しかし、その時、働くこと自体は、食べること、生きることの二の次となる。

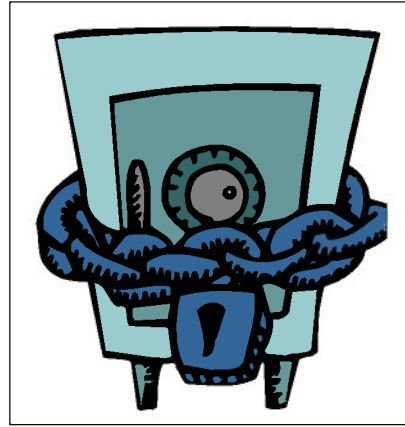
この場合の生きることとは、第一には、動物、生物として生命を維持するための衣食住の確保ということであろう。第二には、人間として生きるということで、働くことは、それを阻害するものということになる。労働時間外のプライベートな私的な時間、余暇の時間こそ、生きることで、自分の好きなことができる時間ということになる。（食べること、美食が目的となり、おいしい料理を食べるために働くという人もいるかもしれない。）自分のやりたいこと、趣味を続けるために、仕方なく、社会（専業主婦は家庭）の中で働く。この場合、その仕事に喜びを感じずることは、かなり難しいだろう。

これに対して、「働くために食べる」ということもあり得る。働くことが生きがいであり、働くことこそ、人間として生きることであり、そのために、健康維持、活力を得るために食事をする。社会（あるいは家庭）の中で働くことこそ、喜びであり、労働時間外は心身を休め、次の仕事に備えるということになる。いずれにせよ、食べること、働くこと、生きること、これらは人間にとって基本的な事柄だけに、大いに熟考の要がある。主は言われた。

私の食べ物とは、私をお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。（ヨハ4・34）

ここでは、私と社会、私的公的という人間的な次元を超える、私と神、自分の意志と神の御心という宗教的世界が、私たちの前に広がっている。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（155）



ため込もうとする誘惑

私たちには、次のような物の考え方を発達させる傾向があります。「すべての人に十分な食べ物はないのだから、緊急時に備えて自分に十分な分だけはたくわえておいた方が安全だろう」とか、「だれもが享受できるほど十分な知識は持っていないのだから、自分の知識は自分のために保存しておいた方がいいだろう。そうすれば、だれもそれを使わないだろう」とか、「すべての人に与えるほど十分な愛はないのだから、私の友人たちを他の人が私から奪い去らないように、友人たちを自分のためにつなぎとめておく方がよいだろう」。このような考え方は、欠乏のメンタリティーです。それは、自分が生き延びるために十分なものを持っていないという恐れから、私たちが所有するものは何でもため込もうとするものです。しかし、悲劇は、あなたがしがみつくものすべては、あなたの手の中で腐って行くことにあります。

(0506)

私たちの知識を自由に分かち合うこと

しばしば私たちは、他者に教えることができるほどの知識は持っていないと思っています。私たちは、もっと教えてほしいと要求された時には、もう言うべきことが何も残っていないのを恐れ、自分が知っていることを他者に語ることを躊躇するようにさえなるかもしれません。

このような物の考え方は、私たちを不安にし、無口にし、強欲にし、自意識過剰にします。けれども、他者が求めて来た時にはいつでも、私たちの知っていることすべてを他者と自由に分かち合う勇気を持つならば、私たちは、すぐに、私たちが考えていた以上に、たくさんを知っていることを悟るでしょう。私たちの知識の泉から寛大に与えることによるのみ、私たちは、その泉がいかに深いものであるかを悟るのです。

(0508)

(九里 彰訳)

「彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け・・・」(マタイ 28, 19)。

「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」。「名によって」に対応するギリシャ語の言葉は、日本語には訳しにくいのですが、直訳すれば、「名に向けて」、「名に入れる」、あるいは、「名の中に沈める」となります。また、「名」とは、神の永遠の本質、愛の救う力としての外部への輝き、すべてを救いの完成に導く全能の権能の歴史の中での力ある輝きを指しています。ですから、「名によって」は、神の愛の救いの計画にわたしたちを参入させ、沈めると説明的に訳してよいのです。また、「洗礼」との単語そのものが、「洗う」と言うよりは、「沈める」に強調点を置いています。わたしたちは、洗礼によって神の救いの営みの中に沈められ、新しい関係を神と全世界と結ぶものとされるのです。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」、この句も、もう少し原文に忠実に訳すならば、「天上において、また地上でも、一切の権能がわたしに授けられている」となります。そして、「一切の権能」とは、何を対象とする権能なのでしょうか。天と地のすべての支配、統治する権能であると言うよりは、すべての根源である神である御父の全貌と救いの計画を余すところなく、間違ふことなく啓示する権能、どのような妨害に直面してもこの計画を最終的完成に導く権能と言えます。この啓示者の権能を、イエスは、言語での表明を超えて、一人の人間、一被造物、しかも、罪に陥った全人類との連帯性に生きる者としての地上での誕生から死までの生き方すべてで、特に十字架の死と復活、過ぎ越し秘儀で生きられました。「父よ」と呼びかけ、究極の方、御父に十字架の死に至るまで御自分を超えて誠実であったイエスの姿に、神の内面、愛の対話が啓示されています。また、罪がもたらした死をも愛の最高の証に変容するところに、「一切の権能を授かっている」イエスの姿があります。イエスの死は、他者を生かすために生きる、これを自分のアイデンティティにしていることを、復活は、この姿が神の内的生命そのものであることを示しています。

神の内的生命は、他者を生かすための愛の対話です。究極の方、原理なき原理と言われる御方・御父と、この御父に対面する御方・御子との対話、そして、愛の対話そのものである聖霊です。聖霊によってすべての生きるものはこの愛の対話に参加させていただくのです。わたしたちは、「父と子と聖霊」の中に沈められ、礼拝するのみではなく、愛の対話に招かれています。ルカ 渡辺幹夫

「取りなさい。これはわたしの体である。」といわれた。

今日、私たちは**キリストの御体と御血**の祭日を祝います。聖なる感謝の祭儀の祭日であり、神と人間の間にも和解をもたらすために至聖所に入られる大祭司として、またご自身を私たちの食べもの、飲みものとして与え、私たちと共に留まることを選ばれる方としてイエスを眺めます。イエスは新しい永遠の契約のしるしです。本日の福音では、**契約と血**という二つの言葉が響きます。モーセは民の上にいけにえの血をそそぎ最初の契約としました。イエスは私たちのために十字架の上で血を流し、新しい関係の絆を築くためにご自分の血により新しい契約とされました。イエスはご自身の体と血を私たちの食べもの、飲みものとして与えてくださり、契約の完成の印とされました。感謝の祭儀を祝うたびに、契約は新たにされます。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしの体である。』また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。イエスは言われた。『これは、多くの人の罪のゆるしのために流されるわたしの血、契約の血である。』という言葉の本日の福音朗読で聞きました。イエスは彼の体を食べ、彼の血を飲むために聖なる感謝の祭儀を祝うようにお命じになりました。感謝の祭儀においてキリストの体と血に参与します。御体と御血を分かちあった最後の晩餐のとき、イエスはご自分を記念して、言い換えればイエスの名のもとに、感謝の祭儀を祝うように弟子たちに求められました。感謝の祭儀は、イエスの名において契約を完成するために、また同時にキリストの神秘体において一つであることを示すために、共同体の中で祝われる象徴的ないけにえの食事です。感謝の祭儀は食事です。食事は、同じ心を持ち、お互いに自分たちの生活を分かち合おうとする人々によって祝われます。食事は統一のしるしとなり一致の感情をもたらします。

今日の福音は、イエスの弟子たちとの最後の晩餐に私たちを導きます。種なしパンの最初の日であり、過ぎ越しの子羊が屠られ過ぎ越し祭が祝われる日で、ユダヤ人にとって解放のしるしである最大の出来事でした。イエスは、「神と人間の仲立ちとして、新しい契約をもたらし、永遠の相続に招かれた民は、約束されたものを受け取ることができます；イエスの死は以前の契約に違反する罪を無効にするために行われたのです。」この血を飲むことは、イエスと完全に一つのものになり、自分を与えつくすイエスの愛の犠牲と一つになることです。イエスの血を注ぐことを通して、神と新しい神の民との間での契約が封印されました。私たちはイエスを通して神に完全に従うことを約束し、一方イエスは皆のために道であり、真理であり、命となってください。これら全てのことを私たちは感謝の祭儀を祝うたびにに行います。古い過ぎ越しは新しい過ぎ越しに道を譲り、古い種なしパンはキリストの御体に道を譲ります。ブドウ酒の杯は、私たちのために注がれたイエスご自身の御血の杯に道を譲ります。私たちはイエスを記念して永遠にこれを行います。私たちの救いを確かなものにする御体と御血にたいして主イエスに感謝いたしましょう。また、私たちは新しい創造としてキリストの御体と御血によってキリストに似るものに変えて頂くために、聖なる感謝の祭儀において食事をするのだということを忘れないようにいたしましょう。 (Sr. Paulina)

「人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない」(マルコ 4, 26)。

わたしたちは、「種まきのたとえ話」と聴くと、反射的に、種が落ちた悪い土地、あるいは、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ良い土地、このように種を受け取る土地の状態に焦点を当てて理解することが多いのではないのでしょうか。確かに、「マルコによる福音」にもこのような観点から「種まきのたとえ話」を書いている箇所もあります(マルコ 4, 1-9)。しかし、今日の典礼での福音朗読箇所が強調する観点は、これとは少し異なっているようです。実は、神の国の成長には、神からの特別な照らしがない限り人間には把握できない「秘密」がある、この秘密とは、神の国の成長は、人間の眼には、一見、失敗、頓挫としか見えない状況を経るが、必ずその目的を達成する。神の種、神の言葉の神秘です。イエス自身が、ご自分の宣教活動を民衆が支持したかのような局面を経て、結局は、民衆に捨てられ、ご自分の宣教活動が実を結ばない現実に直面しつつ、十字架の上での死を迎えました。わたしたちは、この十字架こそが、イエスの福音宣教の頂点であり、イエスの宣教活動は、揺らぐことなく成就され、確立されたと、知っています、ただし、それは、人間の知恵の鋭敏さによってではなく、聖霊の照らしによってなのですが。もし、聖霊がなければ、だれも、イエスの十字架の死を神の救いの活動の成就、頂点とは、思えないでしょう。人間の眼には、十字架の死は、つまりかせるもの、愚か以外の何ものでもないからです(参照 1 コリント 1, 23)。

さて、イエスの弟子たちの宣教活動も、同じような経過を辿るのではないのでしょうか。人々は、すぐに宣教の言葉に耳を傾け、信じ、改心するには至らないでしょう。むしろ、十字架の言葉の前に、拒絶、否定、あるいは、排斥、迫害といった反応で応えるでしょう。弟子たちは、このような状況の中で、どのように振舞うべきなのか。それは、落胆して、イエスを宣教することを放棄することではないことは確かです、また、イエスの福音、十字架の死、そして復活を、他のもので置き換えたり、弱めたり、言ってみれば、人々に受け入れられ易いように変形、変質させることでもありません。ましてや、世間に迎合、妥協し、喝采を求めたりすることでもありません。「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです」(2 テモ 4, 2)。 ルカ 渡辺幹夫

洗礼者聖ヨハネの誕生 (B)

幼子は身も心も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に現れるまで荒野にいた。

今日わたしたちは洗礼者ヨハネの誕生を祝います。彼の誕生は、既に年を重ねていた両親にとって、考えることの出来ない特別の恵みでした。八日目の割礼が施された日にヨハネと名付けられました。不思議なことに、口の利けなくなっていた父のザカリアは「この子の名はヨハネ」と板に書いた瞬間に口が開け、人々と一緒に神への賛美の歌を捧げたのです。ヨハネは荒野で過ごしていました。主がヨハネに特別の召命をお与えになったことは、今日の第一朗読、イザヤ書に記されています。“主は母の胎にあるわたしを呼び、母の腹にあるわたしの名を呼ばれた。”これは全ての人に生まれる前から主が準備してくださった道があることを思い起こさせます。洗礼者ヨハネの召命は独特のものです。荒れ野に退き神の国を力強く宣べ伝えました。“わたしの口を鋭い剣として御手の陰に置き、わたしをとがらせた矢として矢筒のなかに隠してわたしに言われた。あなたはわたしの僕、イスラエル あなたによってわたしの輝きは現れる、と。”最後の預言者としてまたキリストの先駆者としての洗礼者ヨハネの功績は比類ないものです。キリストを指し示し、キリストに至る道を明らかにしました。苦しみや挫折を経験し、最後には投獄され首をはねられ殉教しています。

神から託された洗礼者ヨハネの生涯は、私たちにとって特別に意味深いものです。洗礼の恵みによって、私たちも主を顕すものとなりました。言葉と行いによって、受けた信仰の实りを周りの人たちと分かち合い、主イエスキリストへの道を示す証人とならなければなりません。ヨハネの母、エリザベットが息子を世に送り出したとき、時が満ち、長い間待ち望まれていた時代が始まりました。神によって最後の預言者が世に送られたのです。これまでの預言者は来るべき救い主について預言をしてきましたが、洗礼者ヨハネはもう既に救い主ご自身と出会っていました；天使のお告げを受けたマリアがエリザベットをお訪ねになったとき、ヨハネは母の胎で喜びおどつたと書かれています。これは彼だけに与えられた特別の恵みです。また年を重ねた両親から生まれたことも。確かに、神の大いなる恩寵、祝福の結果であると隣人や親せきの人には思えました。神にはお出来にならないことがないからです。天使から告げられたことは成就し、ザカリア自身その恩恵の中で最高の喜びに満たされています。ザカリアは大いなる感謝のうちに、聖霊に満たされて神を賛美し、イスラエルの民に対して神が行ってくださった偉大な業を証しするのです。不思議なことに、以後福音書の中でヨハネの両親については何も語られていません。しかし彼らが神の宣教のために息子を快く差し出し、主の道を準備する者にふさわしく育てたことは確かです。私たちはヨハネやエレミヤ、イザヤのような預言者ではありません。しかし私たちも彼らのように、光であるキリストを示し、その救いのメッセージを宣教し、世に対して行われたことについて証しするように呼ばれています。日々の生活の中で、周りの人々がキリストと出会い、キリストを知り、キリストを経験できる小径を整え、これをはっきり示すことが出来るよう、洗礼者ヨハネに願ひましょう。

(Sr. Paulina)

小さな手仕事に熱中していたとき、テレビから聞こえてきたコマーシャルの台詞に思わず手を止め顔を上げました。

「よく 今度生まれかわったらっていうけれど 今度生まれかわる予定はありません」。

なぜかいきなりストンと心の中に入ってしまった。 気になったのでそれから注意してテレビをみていたのですが、そのとき以来目にする事ができず、今もって一体何のコマーシャルだったのかもわかりません。

それにしても、「今度生まれかわったら」とたしかに私たちはよく云うのです。

楽しいゲームのようにフィクションの夢を追って、ああしたい、こうしようと想像をふくらませたりします。また、この世の続きのように次の世を思い浮かべて、果たせぬ望みをつないだりします。

私も、何かの話のついでにそんなことを言い合って興じたことはありますが、ただ、もともとスマートなゲーム感覚が備わっていない私は、もしこれこれであつたならとか、これこれでなかったならなどと思い描いてみることも自体が苦手で、あまりに思いを重ねていくと、身体の方が何ものをも入れる隙間をなくして、耐えきれないような感じになってしまいます。

これも先日テレビでみたことですが、高名な二人の落語家が対談をしていて、やはりこの話題となっていました。

「今度生まれかわったら 噺家になりますか」

「わたしは噺家になりたいですね やり残したことがあるので
生まれかわって是非やり遂げたいですよ」

やり残したことがある、これを是非やり遂げたいというのは、よくわかる気がします。

心残りというのでしょうか、無念の思いというのでしょうか、この切なさはおそらく誰しもが深く感ずるところであるかもしれません。

「すべては成し遂げられた」と言って人生を終わらせることは、なかなか叶うことではありません。 ささやかな事柄であっても、あの時ああすればよかった、ああ言えばよかったと胸が疼き、どうしてひとこと声をかけなかったのか、こんなにも声をかけたかったのに、やり直すことができるならと、もう何年も前のことなのに今でもへたへたと坐りこみ、底の底まで落ちてしまうことが、私にもあります。

そんな時、ほんとうになすすべなくじっとじっとうずくまり、心の内が深まり静まり、やがてほんのり明るく温くなるまで、掌を合わせて罪深い悲しいわが身を抱くしかありません。「今度生まれかわったら」というのなら、これも解けることになるのでしょうか。

仏教には輪廻転生ということがいわれます。その知識もなく、理解もしていないのですが、例えば、三島由紀夫の「豊饒の海」には転生が描かれます。

めぐる時代の中に主人公は次々と生まれかわるのですが、壮麗な物語ともあいまって、文学としての魅りは私をこよなく魅了したのです。文字通り耽溺して酔いしれて四巻を二度通読しました。

周知のように三島由紀夫は本書を書き上げて直後に自死しています。今や如何におわしますと尋ねてみたいです。

人は、私たちは、なぜ生まれかわるなどという発想をもつのでしょうか。一回限りの人生を厳粛に受けとりながらも、なぜそこに余る思いを残し、哀しい無念を宿すのでしょうか。この限りの中から飛び立ちたいとひそかな願いをなぜもつのでしょうか。この世に身を置く人間はなぜそれ程に執心しかつ儂くあるのでしょうか。人の世の情念とは如何ばかりのものなのでしょうか。飽くことを知らない生への渴望とはいのちの本来であるのでしょうか。

しかし、大切なことを忘れてはなりません。私はすでに一度生まれかわっている。

洗礼の恵み——。遭遇という激しい嵐のなかに身も心も舞い散り、あがき疲れはて、もはやどうしようとも何もかもお手上げで、胸をたたき涙を流し、遂にひれ伏して、握っていたこの手を放したではないか。その時、何ものも及ばない洋洋たるあわれみの愛の波に覆いつくされ、すべてをゆるされ、全く新しい生命を与えられたではないか。新しいいのちに今日も生かされているではないか。刻印されたこの愛を私の魂は忘れることはない。

だから、私も「今度生まれかわる予定は ありません」。

その後も引き続きずっと気にしてテレビをみているのですが、あのコマーシャルを目にすることがなく少々残念ではあります。何のコマーシャルかもわかりません。若い女性の声だけが耳にあります。

「よく 今度生まれかわったらっていうけれど 今度生まれかわる予定は ありません」。

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その6

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事柄について話をしての好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもととなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の靈魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって靈的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ

—— 祈り ——

おお、私のイエス、私の母であるマリア様、私が永遠に主のものでありますように。地上のどのような物にも、ご聖櫃以外には、決して気を取られることがありませんように。あなたご自身のために、私が純粋な者であり続けることができるようにしてください。そうすれば、死ぬときには、私は何と幸福なのでしょうと言うことができるでしょう。ついに、崇むべき天配であるイエスのみ心の果てしない大海原の中に沈んで、自分を失うことができるのですから。

私のイエス、ここには、私を本当に感動させたものがあります。それは、おお、イエス、これほど忘恩な被造物に対するあなたの愛なのです。私は、あなたの足元にひれ伏し、当惑しきって、許しを願います。そうです、私のイエス。これからは、いつもあなたのそばで生きていきたいと望んでいます。おお、愛よ、このみじめな被造物を焼き尽くしてください！

私のイエス、私は、あなたの愛の前に、自らを滅ぼし尽くします！ 天と地の神、海と山々、星を散りばめた天空の神であるあなた、愛の恍惚のうちに天使たちによって礼拝される主であるあなた、ご人性をお取りになったイエス、生けるパンであるあなた！ おお、滅ぼし尽くすためには、これらはどれもみな小さすぎます！ もし、それらが、あなたの面影を残しているなら、崇敬に値する愛のしるしとなることでしょう。でも、あなたご自身がとどまっておられるのです——冒とく、洗聖、忘恩、遺棄の対象となることを、ご存じてでありながら。主よ、あなたは、愛に狂っておられるのですか？ あなたは、私たちのために、地上の一箇所だけではなく、世界中の聖櫃のうちにおられます。おお、主よ、あなたは、何と良いお方なのでしょう。あなたの愛は何と偉大なのでしょう。あなたは、この偉大な愛を、何でもないもののようにお表しになります。そして、さらには、ただの被造物、無に過ぎない罪びとに見せかけて、あなたご自身は、消えておしまいになるのです。

イエス、私は幸福です。なぜなら、苦しんでいますから。もっと苦しみたいと望んでいます。でも、あなたの神的意思が私のうちに成就すること以外には、私は何もお願いいたしません。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 5月

わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。
その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

(ルカ 12・49)

旧約聖書の中で、「火」は、預言者が告げ知らせる「神のみ言葉」を象徴的に表すものでした。また、神がご自分の民の間を通られ、彼らを清めながら行われた「神聖な裁き」を表現するものでもありました。

イエスのみ言葉も同様です。「建設的」であると同時に、内容のない崩れ去るべきもの、むなししいものを「破壊」し、その後には真理だけを残します。

洗礼者聖ヨハネは、イエスについて「その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」(*1)と語り、聖霊降臨に始まるキリスト者の洗礼を予告しました。聖霊降臨の日には舌の形をした「火」が現れ、弟子たちは「聖霊」に満たされました。(*2)

ですから、イエスの使命は地上に火を投ずること、すべてを新たにし清める力を持つ聖霊をもたらすことでした。

わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

イエスは私たちに聖霊を与えてくださいますが、聖霊はどのような形で働かれるのでしょうか。

私たちを愛で満たしながら、聖霊は働かれます。私たちはイエスが望

まれたように、この愛を心に燃やし続ける必要があります。

では、それはどのような愛でしょうか。

この世的で、限界ある愛とは異なる、福音的な愛です。天の御父が良い人にも、悪い人にも、敵にも、すべての人に雨と太陽を注がれる(*3)ように、普遍的な愛です。

またこの愛は、相手から何も期待せず、いつも自分の方から一歩を踏み出し、自分から先に愛します。

そして、出会う一人ひとりと自分を一つにする愛です。苦しむ人と共に苦しみ、喜ぶ人と共に喜び、心配する人、希望を抱く人とは、その心配、希望を分かち合います。この愛は、必要に応じて行いを伴うもので、ただの感情的な、口先だけの愛とは異なります。

また、兄弟姉妹の中におられるキリストを愛します。「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(*4)というキリストの言葉を、心にとめるからです。

さらにこの愛は、相手も愛するようになることを望みます。愛が相互のものとなるようにです。

私たちはこの愛を通して、福音を生きていることを、目に見える形で具体的に証しすることができます。そして、この愛こそ、福音宣教のた

めに語る私たちの言葉に、力と価値を与えるのです。

わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

愛は火のようで、燃え続けることが大切です。火が燃え続けるためには、いつも何かを燃やす必要がありますが、私たちは何よりも、自分のエゴを燃やすよう招かれています。そのためには、愛することです。愛する時、私たちの心はすべて相手に向けられるからです。み旨を行いながら、神に心に向け、兄弟を助けながら、兄弟に心を向けるようになります。

ともされた火はたとえ小さくても、燃料を加えて燃やし続けるなら、やがて大火事のように広がっていくでしょう。こうして、イエスが地上にもたらされた愛と平和、普遍的な兄弟愛が燃え広がるでしょう。

キアラ・ルービック

- * 1 ルカ 3・16
- * 2 使徒言行録 2・3 参照
- * 3 マタイ 5・45 参照
- * 4 マタイ 25・40

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2001年8月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

み言葉を生きて

夕食の時に、主人が言った一言で私はとても傷ついてしまいました。今までの結婚生活がまるで、ゼロになったようで、そしてその時の家族の間の空気が一瞬で氷のようになってしまいました。私は、言葉をなくして、その場をたって、洗濯機をかけてくると立ち去りました。洗濯をしながら、私は、神様にお祈りしました。「神様、今何をしたら良いのでしょうか、助けてください。」すると神様は、「愛しなさい」と心の中に話してくれました。私はどうしようかと思いましたが、微笑むことは出来ると思い、何もなかったかのように笑顔で、食卓に戻りました。するとそれまで氷のようだった雰囲気は解けていくのを感じました。家族はまた、なごやかな雰囲気になりました。(N.K)

関東： いのちの言葉の集い

とき：5月13（日）14：00から

ところ：藤沢市労働会館にて

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (59)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

選ばれる人は少ない

十字架の聖ヨハネの最後の言葉による逸話に、「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」(マタ 22・14) という福音書の箇所をほのめかすこのタイトルというか名称をつけることにいたします。

事件は次のようなものです。或る日、ヨハネ修士は、修道士たちと共に、グラナダのサントス・マルティレス修道院の菜園にいました。そしてたくさんの細かい砂や小石を集めるのを楽しんでいました。その後、それをいくつかの部分、分量に分け始めました。そしてとてもとても小さな量を取り分け、物思いにふけるように、それを見つめていました。ヨハネ修士は、その小石の山を見つめていたのです。修道士たちは、彼の顔が変わるのに驚きながら、彼を見つめていました。彼らが彼を見つめ、何について考えているのか、何をしているのか知りたがっているのに気づくと、彼は彼らに言いました。

「私の関心を引くのは、世界のすべての部分に、私たちの主、まことの神、あのすべてのものの主は知られておらず、ただこの小さな分量の小石のみに知られているということ、またこのようなことからさえも、主は私たちに、『選ばれる者は少ない』とおっしゃっているということです」。

この逸話は、確かに、ある種の宣教的な雰囲気をもっています。十字架のヨハネの関心は、いつも「情愛の深いもの」です。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< **Communications** (時事通信) >>

巡礼教会“雪の聖母” アドロの修道院創立100周年記念

アドローイタリア発 (2012年4月29日)

イタリアのロンバルディア州ブレシア県アドロの男子跣足カルメル会修道院は、「雪の聖母」のご保護のもとで、先月4月21日に創立100周年記念をお祝いしました。聖母との絆はとも強く、この地のカルメル会士たちが、「雪の聖母の兄弟たち」と呼ばれるほどです。

1912年4月21日に初めてカルメル会士がこの地に到着して以来、ちょうど100年目を迎えて、ベネチア管区の全カルメル会士が出席して、盛大な記念祭が行なわれました。これには、カトリックの「雪の聖母学園」から多くの教師や生徒や父兄が、また卒業生の同窓会や、近隣の市長や教区司祭たちが参加しました。

カルメル会のベニス管区管区長のジャンニ・ブラッキ神父は、巡礼地の広場で記念荘厳ミサを司式し、「雪の聖母学園」の聖歌隊やブラスバンドがこれをもりあげました。説教の中で、ブラッキ管区長は、「雪の聖母」修道院と修道士と、1519年にアドロに出現された「罪人の保護者」である聖母との深い絆について話しました。

もっとも重要な記念行事は、同窓会の編集によって、修道院の歴史で鍵となる時や中心的人物を記録する写真説明(35のパネル)でよく解説された記念誌『1912-2012 100年…』を発行したことです。この本は、ロドルフォ・ジラデッロ神父とジュゼッペ・フリオニ神父の監修で編集されました。



『わがテレーズ 愛の成長』 重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！



マリー・エウジェンヌ 著
伊從 信子 訳
サンパウロ 出版 173 ページ

現代社会は 神に飢え渴くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも 神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。

本書は、この重要な問いに答えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなごしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森 一弘 司教～
表紙のとびらより

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

6月22日～ 6月23日

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉獻生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土) 福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土) 福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

6月21日—「信仰に生きる」 ※都合により中止となりました。

9月 6日 「信仰の成熟」 渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日10時～16時)

~~7月13日—「ロス・アンデスの聖テレサ」~~ ※都合により中止となりました。

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」 渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生

7月14日(土) 14時～16日(月) 「愛に生きる」

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートル・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

10月19日(金) 20時～21日(日) 16時 信仰の年にあたって(II)

9. 聖週間前の黙想会(2013年) 福田正範神父

※注) 2013年

3月17日(日) 18時～3月19日(火) 16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

一泊黙想会

みことばを生きる

* 2012年6月13日（水）18時夕食～14日（木）16時

* 2012年7月11日（水）18時夕食～12日（木）16時

指 導： 福田正範師（カルメル会司祭）

場 所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

会 費： 一泊参加・・・¥6000



◎日帰り参加ご希望の方は、翌日10時～16時・・・¥3500



お問合せ・お申込み： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年6月22日（金）18時～23日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

6月12日	6月15日
7月10日	7月13日
10月16日	10月19日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

5月29日	6月1日
6月26日	6月29日
9月25日	9月28日
10月30日	11月2日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

4	6月8日	「あなたは誰？」(2)
5	6月22日	「人間の問題性」(1)
6	7月6日	「人間の問題性」(2)
7	7月20日	「信仰を生きるとは？」
8	9月7日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月21日	「イエス・キリストに出会う」
10	10月12日	「福音が語るイエス・キリスト」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】1泊2日 (午後5時～午後4時)

- 7月 7日(土)～8日(日) 聖霊の体験 今泉健神父
9月 1日(土)～2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父
11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

【聖書深読黙想会】

- 1日 (午前10時～午後4時)

- 6月30日(土) 新井延和神父
10月 6日(土) 新井延和神父
12月22日(土) 新井延和神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

- 6月20日(水) キリスト教信仰 松田浩一神父
7月25日(水) 真理 新井延和神父
9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父
10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父
11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父
12月12日(水) 受肉 新井延和神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

- 12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

- 9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

- 11月10日(土)～11月11日(日) カルメル会士 観想者聖マリアに従う

【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午後4時)

- 10月14日(日)～10月15日(月) 松田浩一神父
イエスの聖テレーズの霊魂の城の導入

奉献生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～8月11日（土）松田浩一神父

8月16日（木）～8月25日（土）今泉健神父

12月27日（木）～1月 5日（土）新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日（月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]

講座 『テレジアは現代に何を語るか』

別紙参照して下さい。



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

講座：テレジアは現代に何を語るか

＜アビラの聖テレジアの生誕 500 年祭に向けて、彼女の著作を読む＞

場所：京都河原町カテドラル横の教区事務局 6F ホール

日時：下記の各月日の午後 2 時半より 4 時まで

入場無料

5 月 19 日（土） 新井延和 神父

『自叙伝』による「テレジアの涙」

6 月 16 日（土） 松田浩一 神父

『創立史』にみる信仰の歩み

9 月 22 日（土） 九里 彰 神父

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

10 月 20 日（土） 中川博道 神父

「神の住まいであるわたしたち」

『靈魂の城』を聴きながら

11 月 17 日（土） 渡辺幹夫 神父

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」

『小品集』による



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

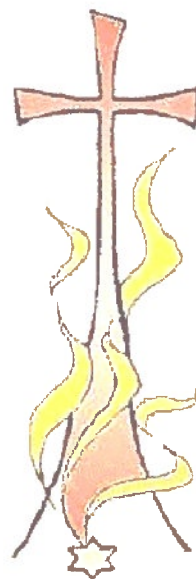
【参加者人数】

6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12:21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川閑雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エウジェニス姉 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第2回 10月27日(土)

新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2-115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

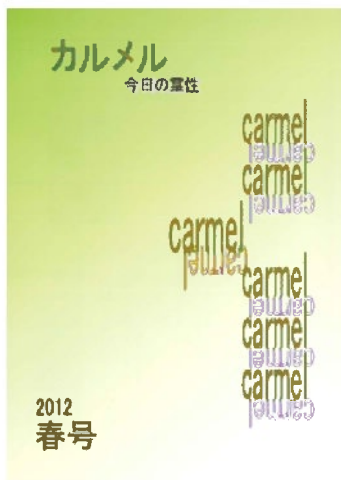
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「カルメル」
今日の霊性・春号
特集号



2012 春 No.344

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

● 荒れ野を行く道

中川博道 2

● キリスト教の歴史から学ぶ

川村信三 16

―悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

● 使徒職の現場から

釘宮禮子 29

● 神のいつくしみの中に生きる

松田浩一 37

● イエスの聖テレサ

● 暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

● 目次 ●

● 今年の特集 イエスの聖テレサ

● わたしは神を見たい

伊従信子 3

● 現代における「従順」の意味 (1)

九里 彰 10

―聖テレサの「創立史」を中心にして

● カルメルの霊性の源流を探して (7)

中川博道 16

―その「会則」に見る生活

● 修道院生活 春夏秋冬 (5)

高橋重幸 23

● イエスのみこころに

ペトロ・アロイシオ 30

● エディット・シュタインととちぎ震災後を生きる

須沢かおり 38

―死と再生の霊性 (1)

● 心の土壌を耕すために (1)

中山真里 44

● 愛に生きるということ

森 みさ 50

● 愛の断章 (3)

奥村一郎 56

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
CWC (キリスト者婦人の集い)
フォコラーレ

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- K 3 06/02 (土) -6/4 (月) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
- N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 12/01 (土) -12/07 (金) 東京・小金井・聖霊会

2013年予定

- K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月 9日 信仰の神秘
- 3月 8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる
- 7月12日 御聖体
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月 8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。
夏学期: 近代前半の霊性と思想 (15世紀後半
～17世紀) 06/02、06/16、06/30、07/07、
07/14、07/28、09/01、09/08

冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世
紀～21世紀初頭)
10/06、10/13、10/20、11/10、11/17、12/01、
12/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトゥルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全

体、10月31日、1月2日は休み。

・通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日)18時～20時45分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

6月16日、7月7日、9月1日、10月6日、11月10日、12月1
日、2013年1月5日、2月2日、3月2日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

9月29日(土)10時～30日(日)14時(東村山)、
11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。

[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。

6月22日(金)20時30分～24日(日)10時

8月6日(月)20時30分～12日(日)10時

9月14日(金)20時30分～17日(月)10時

10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時

宝塚市

7月30日(月)17時45分～8月5日(日)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室

6月2日(土)、2013年1月26日(土)

2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4
階404(予定)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホー
ル4階404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クル
トゥルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

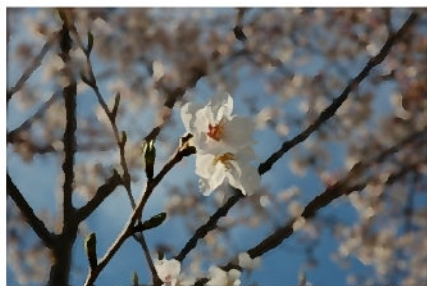
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 06/01:新約聖書の神理解— 主なる父
06/08:祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
06/09-10:●黙想会(東村山)
06/15:救い主の役割— 人類の待望
06/22:神の国— イエスの告げるメッセージ
06/29:イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
07/06:イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/13:イエスは誰か— イエスの自己理解
07/20:最後の晩餐— 自分を与えるイエス
07/27:イエスの受難— その史実と意図
07/28:◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/03:○休み
08/10:○休み
08/17:イエスの死— その救済的意義/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/18-26:●通う霊操(18時-20時45分)/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/24:聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/31:イエスの復活— 今に生きるイエス/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
09/07:聖霊— 神の愛に導かれる
09/14:祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [神]
06/05:世界の根源— 創造的自由・進化・摂理
06/09-10:●黙想会(東村山)
06/19:人生のうちに働く超越— 神経験の多様な形
07/03:「私は在る」— 旧約における神の自己啓示と預言
[人間への神の関わり]
07/17:神の語りかけ— 「契約」と「救い主」の待望
07/28:◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/07:○休み
08/21:○休み
08/18-26:●通う霊操(18時-20時45分、クルトゥルハイム2階)
[イエス]
09/04:史的イエス— 活動と生き方の特徴
09/18:神の国— イエスの使信
09/29-30:●黙想会(東村山)
10/02:根本たる愛— 律法の完成と克服

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

6月 23日(土)

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けると幸いです。

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2012年4月11日 5月9日

6月13日 7月11日



軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

信じます
わたしをお助けください
信仰のないわたし

2012年度 召命黙想会

日時：**6月23日(土) 15:00~**

24日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：6月17日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ①11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ②12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③8月15日(水)～8月23日(木)
- ④10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ①2月3日(金)～2月5日(日)
- ②4月27日(金)～4月29日(日)
- ③5月18日(金)～5月20日(日)
- ④6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

日時： 7月25日（水）、 9月19日（水）

11月21日（水）、12月19日（水）

14：00～16：00

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

アピラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

日時：7月24日（火）10：30～12：00

場所：真生会館

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



フォコラーレの夏のつどい マリアポリ

私たちはひとりで生きているのではなく
皆が「大きな一つの家族」であることが
この時期いっそう明らかになってきています。
今年のマリアポリでは「ひとりひとりの心をつなぎ、
支え合って歩む道」を共に深めたいと思います。



マリアポリでは、家庭的なあたたかい雰囲気の中ミサや祈り、
わかちあい、レクリエーションや散策のひとときもあります。

とき | 2012年7月14日(土) 12:30受付 13:30開始(昼食は各自済ませておこし下さい)
7月16日(月・祝) 昼食後 解散

ところ | 東照館 : 〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野210
TEL: 0555(65)8750 FAX: 0555(65)7793

問い合わせ・申し込み

下記の男子または女子フォコラーレセンターまでご連絡いただければ、申し込み書をお送りいたします。

- ・ 男子フォコラーレセンター: 〒168-0071 杉並区高井戸西 1-11-4
TEL: 03(5370)6424 FAX: 03(5370)3055
- ・ 女子フォコラーレセンター: 〒158-0094 世田谷区玉川 4-20-22
TEL: 03(3330)5619,03(3707)4018 FAX: 03(3707)4019
- ・ <http://focolare.world.coocan.jp> (申込書ダウンロード可能)
- ・ Email: mariapolijapan@gmail.com

参加費 | 大人18,000 / 学生14,500円 / 中学生13,000円
小学生12,000円 / 幼児(3才以上)6,500円

- ・ 7月4日(水)までに申し込み書に内金一人につき2,000円を添え、フォコラーレセンターまで郵送下さい。
- ・ 7月13日(金)午後3時から準備を始めています。お手伝い頂ける方はいらして下さい。(宿泊費 素泊まり 4,200円)
- * プログラムの中では、レクリエーションや自然に親しむひとときもありますので、ご希望の方は歩きやすい靴をご持参下さい。

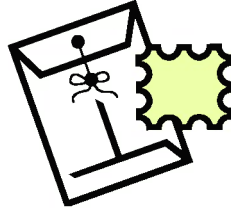
交通

1. 新宿から高速バスで: 新宿 → 山中湖 I.C. → 山中湖 → 平野(約140分)
・ 京王予約センター: 03(5376)2222 ・ 富士急予約センター: 0555(72)5111
2. 新宿から電車で: 新宿(JR中央線120分→大月(富士急行50分)→富士吉田駅(バス35分)→平野

*バス停「平野」より、徒歩5分/駐車場もあります。

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『靈性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先日、ある信者の方が主の祈りやアヴェ・マリアの祈りや縦線の入った便せん？などを大きくコピーしておられるのを見た。何のためかと思っていると、小学校三年生のお孫さん（男の子）のためだと言う。彼がお祈りを「写経」——奥村神父の聖書深読では「書禱」——するのだそうで、曰く、「お祈りを写経していると、気持ちがスーッと落ち着いてくるんだよね」とのこと。

小学校三年生で、写経するというのも驚いたが、それをしていると気持ちが落ち着いてくるというのにもびっくりした。一字一字、心をこめて書き写す時、その祈りの文の一言一言が、彼の小さな心にしみこんで行くのであろうか。これは、まさに祈り、書禱である。

新幹線や飛行機、携帯やインターネット、皆が忙しく動き回り、騒がしい情報連絡の渦の中にいる。写経は、その中で立ち止まり、沈黙と静けさの中で神と向き合う、いやしの時間なのであろう。 (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「7月号」製本日 6月26日(火)

上野毛教会信徒会館ホール1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171